

① 学習指導案

プログラム	No.11 「地域景観プランナーになろう」
单元名 (全 時間)	越谷ちょうさたい！
学習のねらい	「越谷市のよさ」について調査・発信する活動を通して、探求的な学習を踏み、汎用的な能力を培う。
学習内容	1【問題を見つけ追及する力】問題の発見、情報の収集、情報の整理や分析、考えの表出など、主に学習に関する資質や能力を高める。 2【自己を見つめる力】自分の行動を意思決定する、自分の生活や生き方を考えるなど、主に自分自身を見つめる態度を育てる。 3【自分から働きかける力】他者や社会に進んでかかわり、他者と協働して学ぶ能力や社会活動に参加する態度を育てる。
参考資料 準備品 実施場所等	教室 越谷ねぎ畑、花田苑・能楽堂、野鳥の森公園

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	①課題を立てる。 ②学習課題を立てる。	児童に「越谷市のすごいところ、よいところ、おすすめのもの」を出し合わせる。次に、保護者に実施したアンケートの集計結果を見せる。そのことで、越谷市のよさをたくさん出せる児童と、そうではない保護者との実態の差に気付かせ、課題を立てさせる。その後、保護者に越谷市のよさを発信したいものの、詳しく話せない自分たちの実態に気付かせ、越谷市について詳しく調べることへの必要感を持たせる。	態自分にできることを考えようとしている。 (ワークシート)
2 3	①越谷市にはどのよ うなよさがあるの か知る。 ②特に興味をもった ものから一人一人 の課題を立てる。	越谷市役所の広報シティプロモーション課の職員を呼び、様々なジャンルを網羅的に紹介してもらう。 講義後、児童は個人の興味に応じて調べる対象を定め、課題を立てる。 類似する課題を立てた児童らをグルーピングし、調査活動班をつくる。	思何を調べたいか、考えを書いている。(ワークシート)



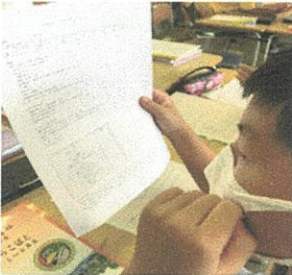
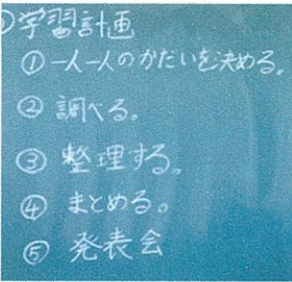
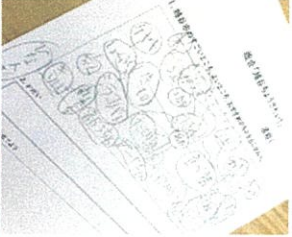
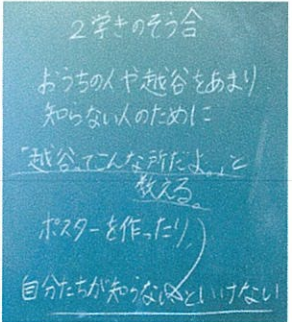


4 ～ 1 3	①調査活動を行い、調べたことを記録する。	児童が設定した課題について、適切な調査の仕方を指導する。 例えば、電話でのインタビューを希望する班があった場合には、事前に教師が先方に連絡を取り依頼する。その後、児童に電話対応についての指導を行い、授業内で実施させる。	知課題について調べている。(発言、行動、ノート) 思調べたことについて自分なりにまとめ、振り返りを書いている。(ワークシート) 態課題解決に向け、粘り強く情報を収集している。(観察)
1 4 1 5	①調べた情報を整理する。	まとめるために必要な情報の過不足を確かめさせる。調べられていない情報があったり、当初の構成にはなかったが入れたくなった情報があったりする場合には、構成を再検討させる。	思集めた情報から、学級に伝えたい情報を選択している。(発言・ワークシート) 態互いの意見を生かしながら活動している。
1 6 1 7 1 8 1 9	①まとめる。	相手を意識して、丁寧な書字、見やすい資料、筋道の通った構成、難しい語句の扱いなどを考えながらまとめるよう指導する。	思学級につたえたい情報の効果的な表現をしている。(観察)
2 0 2 1	①発表会をする。 ②振り返る。	1時間目に立てた全体の課題に立ち返らせ、自分たちが詳しく越谷市について知るための発表会であることに留意させる。 3学期の総合的な学習の時間に向け、これまでの一連の活動で学んだことや、ここまで知ったことをどのように発信していきたいかを考えさせ、動機付けを図る。	知越谷市のよさに気付いている。(ワークシート)

<留意点>






上記の学習活動を受けて、3学期には、「越谷市のよさ」を保護者や社会に向けて発信する学習を行う。






② 事業実施報告書詳細

学校名 越谷市立川柳小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	各教室	<p>1 「越谷市のすごいところ、よいところ、おすすめのもの」を出し合う。</p> <p>2 保護者に実施したアンケートの結果をもとに話し合う。</p> <p>3 児童の意識と保護者の意識を比較し、課題を見つける。</p> <p>4 学習計画を立てる。</p>	   	  <p>「すきじゃないとかどちらとも言えないって人もいるんだね。」          「とてもすきって人の数を増やしたいな」          「イオンレイクタウンばっかだな。」          「越谷だるまとか伝統工芸品をすすめたって人の数が10人もいないんだね。」</p>
2 3	体育館 教室	<p>1 ゲストティーチャー(越谷市役所広報シティプロモーション課課長)より、越谷市の魅力についての網羅的な講話を聞き、自分の興味や関心のあるところを探す。</p> <p>2 自分の知っていることや講話から、保</p>		 <p>「越谷市にはぼくたちが知らないことも結構あるな。」          「わたしは越谷ひな人形について調べようかな。」          「海外との交流もある</p>



		<p>護者に発信したい・自分が調べたい事柄を決める。</p>		<p>んだ。」</p>
4 ～ 13	教室 調査 している 現場	<p>1 電話での取材、インターネット、本、インタビュー、現地取材、テレビ電話会議、FAX、手紙などの手段を用いて、調べ活動を行う。</p> <p>2 手段を用いる際の適切な方法や礼儀について適宜知る。</p> <p>3 毎時の最後には、「もっと知りたくなったこと」「疑問」「知った感想」などを振り返りに書く。</p>	<p>&lt;インターネット&gt;</p>  <p>&lt;対面インタビュー&gt;</p>  <p>&lt;電話取材&gt;</p>  	<p>「こんなにたくさんの方が利用するのか。」</p> <p>「休みの日にぼくが写真撮りに行ってくるよ。」</p> <p>「越谷産業フェスタで実際に食べられるらしいよ。待ち合わせして行ってみようか。」</p> <p>「これをおうちの人に伝えたいな。」</p> <p>「越谷にいいところいっぱいあるじゃん。」</p>

14 15	教室	1 KJ法で調べた情報を分類・比較し、「越谷市のよさ」として何を伝えるべきか話し合う。	 	<p>「作るのに時間をかけているのは、気持ちがこもっているってことだから、いいよね。」</p> <p>「この情報はよさとしてじゃなくて、最初の説明に入れようか。」</p> <p>「紹介する順番はどうしようかな。」</p>
16 17 18 19	教室	<p>1 発表の組み立てを考える。</p> <p>2 絵や写真の効果的な使い方、文章の簡潔なまとめ方など検討し、下書きをする。</p> <p>3 画用紙にまとめる。</p>	 	<p>「久伊豆神社の美しさは写真の方が伝わるよね。」</p> <p>「そこは箇条書きにした方が見やすいよ」</p> <p>「ランキングにしたらおもしろいかな。」</p> <p>「クイズにすれば興味を持って聞いてくれそうだね。」</p>
20 21		<p>1 発表会をする。</p> <p>2 発表に対する疑問や感想を伝え合い、今後の活動の参考にする。</p> <p>3 学習をふり返る。</p>		<p>「越谷市にはすてきなものがたくさんあるんだね。」</p> <p>「どうして知らない人が多いのかな。」</p> <p>「このことを伝えていきたい。」</p>
22 ～ 現在		3学期		<p>「越谷市のステキを、越谷市の人たちに伝える」ことをテーマに、発信の方法を企画しているところです。現在児童から出ている案として、カルタづくり、ポスターやちらしでの宣伝、イベントの開催などです。絵空事ではなく、ポスターを貼る許可を取ったり、企画書を作成したりとその実現に向けて計画的に活動しています。</p>

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>児童の思考過程に十分配慮して学習展開である。</p> <p>越谷市のよさって知ってる？→自分たちは知ってる→おうちの人は知らない→伝えたいな→でもそんな詳しく知らないよ→じゃあまず自分たちが調べて博士になろう→どうやって調べよう→本やインターネットじゃ分からないこともあるね→聞いてみたいな→よく分かった→発表会をしてみんなで詳しくなろう。→どうやって伝えようか→</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>児童がやりたいと考えたことに制限をかけなかったことである。「誰に聞きたい」「どこに行きたい」という思いを尊重し、もちろん児童から形式的な連絡は取らせたが、教職員での根回しに注力した。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>越谷市のステキを伝えるために児童が考えた企画は現在も進行中で、4年生も本単元を継続することになっている。3学期からは教職員の根回しなしで企画を持ち込んでいる。大人・社会相手に自分たちがやりたいことを実現することの難しさを実感しつつも、できることを模索しているところである。児童の意欲が落ち込みを見せないのは、本気で越谷市のよさを広めたいと思っているからではないかと考える。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>児童が「まちづくり」に参画するというのは、なかなか難しいことではないかと思っていた。しかし、児童が思いを伝える中で、協力してくださる地域の方が多くいた。また、農産物や伝統工芸品の作り手の皆さんは、年々関わる人が減ってきていることを悲しんでいた。それだけに、まちの小学生が自分のものづくりに興味をもってくれたことに大変嬉しそうであった。</p> <p>教職員一同、そのような姿を見る内に、より越谷市のよさに興味をもち、知っていきたい、児童と協力して本気で広めたいと考えるようになった。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>伝える対象を、はじめは保護者を想定したが、越谷市の人たちとした。これは、その方が発信の手段に幅が出て、おもしろそうだという教職員の安直な考えであった。しかし、たしかに幅は出たのだが、児童の企画を実現することに難しさが出てきた。たとえば、イベントを開いて試食をしてもらいたいといえ、食材をどのように調達するのか、会場はどうするかなどの問題が出た。また、広告を町中に貼りたいといえ、許可取りが難航した。これらのことは、児童に「自分たちには無理かもしれない」と思わせてしまい、意欲の低下を招く結果になった。発信の方法や対象には再考する必要がある。</p> <p>また、資質能力の位置づけが詰め切れないところがあった。総合的な学習の時間は、各教科で身に付けた資質能力を発揮する場に他ならない。そこに教師の意図や指導がなければ教育効果が半減してしまう。今後、指導の計画に位置付けていきたい。</p>